

「地域型復興住宅プロジェクト」みんなでつくるみやぎのいえシリーズ「黒い家」「白の家」

[応募者名] 勤務先名：公益社団法人 日本建築家協会東北支部宮城地域会（全体統括・監修）勤務先住所：宮城県仙台市青葉区二日町17-21 980-0802
 新宮城の家づくり協会（施工統括） 有限会社 都市建築設計集団/UAPP（設計者） 有限会社 SOYSOURCE建築設計事務所（設計者）
 株式会社 センケンホーム（施工者） 株式会社 佐善工務店（設計舎） 株式会社 都市リサーチ設計（コンサルタント）
 連絡先（勤務先） 株式会社 都市リサーチ設計 TEL 022-342-0830 FAX022-342-0831

●地域性への配慮事項

東日本大震災(H23.3.11)は、東北及び北関東地区の太平洋沿岸部分に未曾有の大災害をもたらした。ここ宮城県も例外ではない。震災から2年以上が経過し、それぞれの被災地域ではいま、復興住宅建設が、本格的に始まりつつある。しかし、圧倒的な量の建設が必要なこと、ナショナルブランドのハウスメーカーや、他地域からのハウビルダーの参入、地元業者による在来木造住宅も地域性への配慮に欠けた住宅建設が無秩序に進む可能性があり、このことに危機感を持ち、「地域型復興住宅プロジェクト」を立ち上げ、地域特性に配慮を払った「宮城型地域復興住宅モデルハウス」の建設を本県岩沼市にて実施した。

本事業は、「木造住宅等の施工能力向上・継承事業」の一環として実施された。事業全体の主幹は、「日本建築家協会東北支部（以下 JIA 東北支部）」であり、事実上の主宰は、その中の「宮城地域会」である。また、本県の地域型復興住宅建設を目的として地元工務店により組織された「新宮城の家づくり協会」が、事務局及び本モデルハウスの施工担当者として参加し

た。これにより 本県が、今後、復興住宅の建設を大量かつ迅速に推進するに当たり、県産材活用、地域特性の踏襲、地場工務店の活用、省エネ工法の普及、新しい大工技術の習得等に重点を置いたモデルハウス建設を行うことで、地域型復興住宅建設の促進に寄与することを目標とした。

●作品の概要

本事業は、JIA 東北支部（宮城地域会）が中心となり、同地域会に所属する建築家が、地域の工務店（新宮城の家づくり協会）と共同で、地域の特性を生かした復興住宅の推進を目的として建設した「モデルハウス」である。

家を建てるに当たり、住まい手が思い描くライフスタイル考えることで「住む」ことを追求し、建築家の個性が生み出す美しさと楽しさを併せ持つ新しい復興住宅を地域の工務店が建てることをめざした。

宮城の土地で育った杉を使い、大工、蔦、左官、建具、家具板金等、多くの職人の「技」が伝わった宮城の家が、新しいデザインと技術でこの震災を機に創設することとした。

●作品の特徴

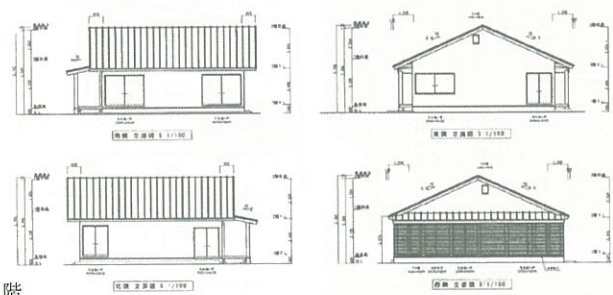
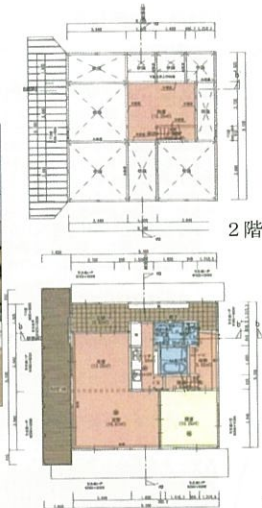
「黒い家」は、少人数世帯のために計画した。基本的には、日本家屋のエッセンスを取り入れた平屋の構成となっており、家に足を踏み入れていくにしたがって様々な方向に視線が通り抜け、奥行きのある空間が開けるようにした。

素材は、郷土宮城の土と木と紙を中心に揃え、力強さと艶やかさが香ることを狙った。土間、障子越しの薄明かり、黒く艶やかな木目・日本家屋が持つ奥行き感と、木のぬくもり、やさしさ、そしてシャープな艶を感じさせる住宅とした。

「白の家」は、家がひとつの中身のつまったハコであったら住まい手は、どこに部屋をくりぬくだろうか？すべてが一つの場所につながるくりぬかれた空間の連続、リビングが扇の「要」となり、キッチン、水回り、それぞれの個室がそこからくりぬかれたように出会う。居心地の良い場所がポツンポツンと点在する家から、つながり、ひろがる家へ。それが宮城大工のいえづくり「白の家」である。

黒い家

平面図、立面図、内外写真
面積表

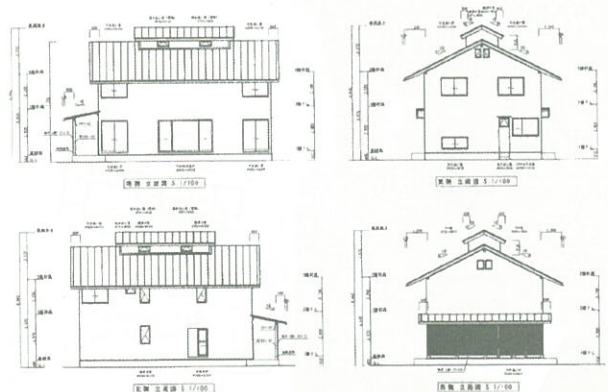
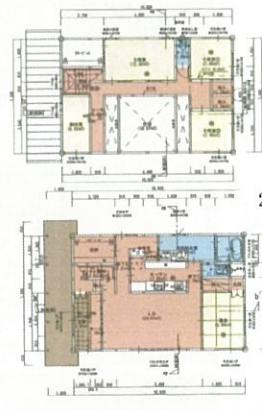


階	面積 (㎡)
1階	105.09 (31.60)
2階	18.45 (4.67)
延床面積	123.54 (36.27)
建築面積	105.09 (31.60)



白の家

平面図、立面図、内外写真
面積表



階	面積 (㎡)
1階	111.50 (34.60)
2階	23.57 (7.40)
延床面積	135.07 (42.00)
建築面積	111.50 (34.60)

